



SCOUTは2010年4月に「学生がサイエンスコミュニケーションを実践する場をつくる」「科学に対する関心を高める」「科学に興味をもつきっかけをつくる」ということを目指して設立されました。2013年5月現在、メンバー数は約20名。様々な分野の学類生、大学院生、留学生および教職員が参加しています。

<http://tsukubascience.com>



筑波大学社会貢献プロジェクト

科学遊びラボ

筑波大学と連携している大子町で、小学校低学年を対象にした「夏休み科学実験教室」を行いました。

冷蔵庫の中のケーキを食べた犯人をさがすというストーリーとし、家にあるものを使って、指紋調査、pH実験、サインペンクロマトグラフィーを行いました。

参加した子どもたちはもちろん、見学していた保護者の方々からも大変好評でした。また、つくば市内の児童館においても、科学遊びラボを何度か開催しました。



被災地での活動

震災前の気仙沼図書館では、毎月科学実験教室が開かれていたそうです。震災後は市内で講師を集めることが難しくなったということで、2012年9月の実験教室はSCOUTが担当し、光の万華鏡づくりを行いました。

「大学生と一緒に科学実験」ということで、新規来場者も多かったそうです。筑波大学が北茨城市で行っている「被災地における心の復興支援」プロジェクトにも継続的に参加し、多くの子どもたちと科学実験を楽しみました。



筑波大学キッズユニバーシティ

4月の科学技術週間に行われた第一回筑波大学キッズユニバーシティでは、4つのブースを担当しました。

5月の皆既日食を観察するための日食グラスを作るブースで日食メガネを作った子どもたちは、そのメガネを使って日食を観察したようです。

4つのブースは常に満席で、「次年度も是非開催してほしい」というご意見を多数いただきました。

キッズユニバーシティについては、広報室の渡辺政隆先生とSCOUTの尾嶋好美とで論文にし、日本サイエンスコミュニケーション協会協会誌に掲載されました。



アカデミックな活動

毎年11月にお台場で開催されるサイエンスアゴラにて、「サイエンスコミュニケーションによって生まれたwinwinの関係」としてポスター発表を行いました。

12月に行われた日本サイエンスコミュニケーション協会の年会においては、「サイエンスコミュニケーション活動を行っている学生は、サイエンスコミュニケーションについてどのように考えているのか」ということを調査し、学生メンバーが口頭発表を行いました。このような活動を通し、SCOUTの認知度は高くなってきています。

